

■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① 大臣に、われ参りて事の由を申す。
- ② 姫君に、文の心を聞こえて、返事を待つ。
- ③ この由を、帝に奏す。
- ④ そのよし、中宮に啓す。
- ⑤ めづらしき果物を、上に奉る。
- ⑥ 名高き琴を、宮に参らす。
- ⑦ 親王より、よき馬を給はる。
- ⑧ 翁、明日かならず御前に参るべし。
- ⑨ 暇を得て、夜更けに里へ罷る。
- ⑩ 年ごろ、女院に仕うまつる。
- ⑪ 御物語のさま、よく承る。
- ⑫ かやうのことは、われよく存ず。
- ⑬ 御前にて、文を読み奉る。
- ⑭ 姫君に、心のうちを語り聞こゆ。
- ⑮ 大臣に、急ぎ知らせ申す。
- ⑯ 御供に、夜もすがら候ふ。

■ 設問 (全23問)

1. 傍線部①「申す」を、敬意を含まない普通の語に直せ。
2. 傍線部①「申す」は、本動詞・補助動詞のいずれか。
3. 傍線部①「申す」の敬意は、誰に向けられているか（動作の受け手は誰か）。
4. 傍線部②「聞こえ」は、もとはどの語の謙讓語か。普通の語に直せ。
5. 傍線部②「聞こえ」の敬意は、誰に向けられているか。
6. 傍線部③「奏す」は、誰に「申し上げる」場合に用いる語か。
7. 傍線部④「啓す」は、誰に「申し上げる」場合に用いる語か。
8. 傍線部⑤「奉る」を、現代語訳せよ（受け手を高める訳にすること）。
9. 傍線部⑥「参らす」を、現代語訳せよ。
10. 傍線部⑦「給はる」を、敬意を含まない普通の語に直せ。
11. 傍線部⑧「参る」を、現代語訳せよ。
12. 傍線部⑨「罷る」を、現代語訳せよ。
13. 傍線部⑩「仕うまつる」を現代語訳し、あわせて誰への敬意かを答えよ。
14. 傍線部⑪「承る」を、敬意を含まない普通の語に直せ。
15. 傍線部⑫「存ず」を、敬意を含まない普通の語に直せ。

あわせて、⑫の「存ず」が何を高めているか（敬意の方向）も簡潔に答えよ。

16. 傍線部⑬「奉る」は、本動詞・補助動詞のいずれか。
17. 傍線部⑬「奉る」の敬意は、誰に向けられているか。
18. 傍線部⑭「聞こゆ」は、本動詞・補助動詞のいずれか。
19. 傍線部⑮「申す」は、本動詞・補助動詞のいずれか。
20. 傍線部⑮「申す」を含む一文「大臣に、急ぎ知らせ申す。」を、敬意を生かして現代語訳せよ。（記述）
21. 次の二つの「奉る」について、それぞれ意味を答えよ。
 - (ア)「御くだもの、所狭きまで奉る。」（主語は高貴な人物）
 - (イ)「われ、宮に絹を奉る。」（主語は話し手）
22. 次の「奉る」のうち、尊敬語（「召し上がる・お召しになる」の意）であるものを一つ選べ。
 - (ア) 姫君に、歌を詠み奉る。
 - (イ) 大殿、ことごとしき御衣を奉る。
 - (ウ) 帝に、宝物を奉る。
23. 「奏す」と「啓す」は、どちらも「申し上げる」という意味の謙譲語だが、用法上どのような違いがあるか。受け手の違いに触れて説明せよ。（記述）